

## 成田山仏教図書館

北村 弥生

成田山仏教図書館は、成田山中興第15世貫首石川照勤僧正により、千葉県下で初の図書館として1901（明治34）年に設立され、翌年に一般公開された図書館である。1988年3月に現在の鉄筋コンクリート造、地下1階・地上2階（一部3階）建ての新館に移り、名称を「成田図書館」から「成田山仏教図書館」に改称した。この新館は、成田山新勝寺の境内のはずれ、大本堂の右手奥に位置しており、境内のにぎわいからはちょっとはずれた、閑静な場所にある。財団法人成田山文化財団により運営されている。

1988年8月の図書館業務再開と同時に、コンピュータを導入して蔵書データベースの作成を開始した。2005年4月からは、73万件を超える蔵書データベースをインターネットで公開している。蔵書データの遡及入力についても、すでに終了しているそうである。2006年3月31日現在で、図書319,277冊、雑誌3,728種、新聞207種を所蔵している。蔵書は、仏教関係の図書・雑誌に限らず、広い分野で構成されている。江戸期の版本や明治・大正期の貴重な資料も数多く、とりわけ古い雑誌などの逐次刊行物には、国立国会図書館未所蔵の資料も多く含まれている。このように古い資料が残っているのは、蔵書の廃棄を行わなかったためであるという。

明治・大正期の古い雑誌は、閉架書庫

ということもあって利用はそれほど多くないとのことで、資料の保存状態はかなりよい。国立国会図書館では資料の状態がよくないためマイクロ化されている資料も、原資料での閲覧が可能である。今のところ、このような古い雑誌のマイクロ化等のメディア変換の予定はないそうである。

市内の公共図書館や大学図書館とは特に協力関係を結んではおらず、資料の貸出は成田市及び近隣市町村の居住者に限定されているが、来館による閲覧・複写の申込みは成田市及び近隣市町村の居住者以外の利用者でも可能である。また、遠隔地からの複写申込みにも対応している。なお、蔵書の利用については、必ず、事前に電話で確認をしてほしいということであった。

閉架書庫を見学させていただいたが、開館当時、帝国図書館の配架を参考にしたとのことで、明治・大正期の図書が大きなごとに並んでいる書庫の雰囲気は、当館東京本館の書庫1層（戦前の図書を配架）と非常に良く似ており、なんとなく親近感を感じた。

成田山仏教図書館ホームページ：  
<http://naributto.michikusa.jp/>  
 2007年1月31日訪問

（きたむら やよい 参考企画課）